僧職男子に癒されルーム ■26

「縁」に感謝を

岩見沢・善光寺　大久保　瑞昭住職

仏教では、我々が生きているこの世界のことを「忍土（にんど）」と言います。この世は、耐え忍ぶ国土だ、ということなんですね。それだけ、この世は、自分の思い通りにはいかない、ということでしょうね。

良いことをしているからといって、それが必ずしも良い結果を生むとは限らない、いや、良いことをしていても、悪い結果になる事も、人生には、しばしば起こります。そもそも、「良い」という事も、それは自分にとって「都合が良い」だけかもしれませんね。

アメリカ・メジャーリーグで活躍中の田中将大投手が、肘の靭帯断裂で休養を余儀なくされました。その原因を探れば、登板日数が短いとか、メジャーのボールに問題があるんだとか、色々とあるでしょう。それでも、靭帯を損傷しない選手も多いわけですから、それら原因とされている事の全てが改善されていれば、靭帯の損傷が無かったとも言い切れませんね。

今回のケガについて、田中投手はご自身のブログで「球団からの発表の通り、これから数週間のリハビリに入りますが、これも長い野球人生の一部であると受け止めています。選手としてプレーを続けている以上、故障するリスクは常にあります。そういった状況に陥ったとき大切なのは、しっかりと自分の身体と向き合い、一日でも早く復帰できるように努めることだと思います」と述べられています。

忍土であるなら、この世界をどのように認識するか、受け止めるか。

この世界は全てが関係しあって生きている、色々な出来事もお互いに関係しあって起こっている、そのような考え方を仏教では「縁」によって「起こる」という事で「縁起（えんぎ）」と言います。

物事が色々な「縁」によって起こっている。ならば、それを受け入れる事から全てが始まっていく。田中投手の言葉から、そのことを、私は感じとりました。

来月はお盆です。どうぞ、自分の関係のあるご先祖さまだけではなく、あらゆる仏さま、ご先祖さまに手を合わせる時間をお持ち下さい。そして、自分の受けている「縁」に静かに感謝をいたしましょう。

ベートーヴェンに恋して①

ピアニスト・北海道教育大学岩見沢校准教授　深井　尚子

「ベートーヴェンに恋して」というタイトルで、1年間、エッセイをお届けすることになりました。18世紀、19世紀のヨーロッパ、また、音楽の都ウィーンについて、ベートーヴェンの音楽とともにお話ししていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

父が北炭の社員だった関係で、高校2年生まで空知地区で過ごしました。その後、父の転勤で東京に在住となり、ピアノを勉強するためにウィーン、ロンドンに留学し、ヨーロッパで8年間を過ごしました。東京、ヨーロッパを中心に演奏活動を行っていましたが、まるで、故郷に引き寄せられるように、北海道教育大学岩見沢校で教鞭をとることになり、現在に至っています。

さて、ベートーヴェンを知らない方は、たぶん、ほとんどいないのではないかと思います。「ダダダダーン」の運命交響曲や、「フロイデ！」の第9交響曲、また、ピアノ曲では「エリーゼのために」や「月光の曲」など多くの楽曲が広く知られていると思います。ベートーヴェンは、1770年12月にドイツのボンで生誕し、1827年3月にウィーンで没した作曲家です。つまり、ベートーヴェンが生まれてから、ほぼ250年の時が流れています。にもかかわらず、今でも私たちに感動を与えてくれるのはなぜでしょうか。その理由は、ベートーヴェンの生きた時代背景から見出すことができます。

私たちが生きる現代社会の基礎は、18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパで形作られました。1789年に起こったフランス革命のスローガン「自由、平等、博愛」の思想が徐々に全ヨーロッパに浸透し、その黎明期にベートーヴェンは生きていました。音楽史上ベートーヴェンと同時代に分類される、1732年生まれのハイドンや1756年生まれのモーツアルトは、ベートーヴェンとは生誕がそれほど違っていませんが、生きた時代背景は、異なります。ヨーロッパ社会は、ベートーヴェンの活躍したころに大変革が起こりました。

ドイツ観念哲学の始祖、カントやヘーゲルの新しい思想もちょうどこの時期にあらわれています。600年の歴史を持つハプスブルク帝国の没落もこの時期にその兆候が見え始めており、貴族社会とともに市民階級が台頭してきました。ベートーヴェンの音楽も、貴族だけではなく一般市民にも受け入れられて行きました。

また音楽の都と呼ばれるウィーンですが、さまざまな作曲家が活躍した国際都市でありながら、伝統と格式を重んじる街で、同じドイツ語を話すドイツとは少し異なり、エレガンスを大切にし、おいしい食事とたくさんの種類があるコーヒーやお菓子が今でもあふれています。私は、6年間ウィーンで留学生活を送りましたが、学生食堂でもなかなかおいしいランチがあったことを思い出します。

これから1年間、ベートーヴェンを軸にしながら、ヨーロッパ社会史、思想史、ウィーン案内などお話ししていきます。

陽彩　随筆

気になるパーセント

堀　利　幸

サッカーのワールドカップをテレビで楽しませてもらった。期待の日本チームが決勝トーナメント出場をかけたコロンビア戦の視聴率は、54パーセントに上ったという。僕もその中の一人だった。

その夜、西村京太郎の小説「神話の殺人」を読んだ。トラベルミステリーに馴染んで手にした本は数え切れないが、5月に買ったのは短編集である。若いころ雑誌に書いた作品8編の中に、その小説もあった。

テレビ雑誌編集長が、視聴率を競う番組作りで起きた殺人事件を追うストーリーだ。「映像は事実しか伝えない」という製作者に、編集長は「テレビ関係者が勝手に作った神話」と反発し、映像のからくりを暴いて事件を解決する。

その冒頭部分に「単純に数字だけを考えれば、視聴率5パーセントでも5百万人が見たことになる」という一文がある。僕は40年も前の仕事を思い出した。テレビと生活との関連に取り組んでいた当時である。視聴率が低い教育番組に「1パーセントでも百万人が見ている」と仲間で語り合った場面だった。

まさにコロンビア戦は6千万人がテレビ視聴したことになる。そして7月14日の明け方、ドイツとアルゼンチンの決勝戦を楽しんだ。けれど妙に視聴率が気になり、いろんなパーセントに思いが広がった。

降水確率は天気予報を見るたび気になる。食糧自給率、失業率や就業率、支持率や投票率など、新聞やテレビで報道されるたびに気になる。

なかでも消費税率が4月から8パーセントになった。3か月経ち、店の値札を見ながら、消費税の分だけかと懐疑的になる。日銀は企業の物価調査で、1年後の上昇は1・5%にしか届かないので、目標の2%に向けた対策を講ずるという。消費税では食料品などの軽減税率を検討するというが、どうなるかまだ先の話だ。

共同通信社の世論調査は6月にもあった。集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈変更に「賛成が30%」「反対が58%」とある。3千700万人の賛成、7千200万人の反対となる。

今日も記事や番組の中からパーセントが飛び込んでくる。暑い季節なのにビールの味がいつもと違って気になる日々である。

アイヌ語よもやま話 ⑩

アイヌが利用した植物

山菜の四姉妹

岩見沢市在住　山下　栄光

モセウシは、モセ＝オオバイラクサ、ウシ＝多い、イ＝ところを意味し、茂世丑、妹背牛の漢字が当てられました。モセカルウシイになれば、イラクサをいつも刈るところ、となります。

キナウシは、キナ＝ガマ（スゲ）・草、ウシ＝多いところで、杵臼の漢字。キオマプは、キ＝アシ、オ＝ある、マ＝入っていく、プ＝するで、アシの中にある川で清真布。クッタル（クッタラ）はオオイタドリのこと、クツー円筒形・のどもと、タ＝そこを、ラ＝下がるで、久樽。アイペツは、アイ（ハイ）＝イラクサ、ペツ＝川で、イラクサのある川となり、愛別の漢字が当てられました。

この名前のある地域の植物は、実際に丈も長く、太くて良い材料になり、アイヌにとって特に意味のある地名となりました。

アイヌの人たちは食べ物など、この人間界に存在するあらゆるものは神からの恵みであると大切にしました。食料の中心となった四種の山菜を、姉妹に例えた民話があります。

最初に天から降りてくる長女（一年のうち雪解け後に一番早く食べられます）が、ギョウジャニンニク（キトピロ、プクサ）、次女がウバユリ（ツレップ）、三女はザゼンソウ（シケルペキナ）、四女はヤチブキまたはエゾノリュウキンカ（プイ）となります。それぞれの若葉や球根を掘って食べました。

地名では少ないのが、アイヌ語でツレップまたはトウレプというオオウバユリです。

明治の開拓時代から、食べ物不足の時は開拓者も食料にしました。昭和六年の大凶作の時には、山のオオウバユリがほとんど掘り起こされたと記録に残っています。

フキはどこにでもあるので地名になり辛いとされています。

郷土文芸

美唄かげろう俳句会

折り返すひごいまごいや半夏生　岡田　春水
えぞの地に居座る梅雨や芝の花
人生に定年はなし青田風　倉本　眞子
浅漬をほりほり噛むや朝涼し　開　昌子
打水の少し涼よぶ夕べかな
琴の音に揺るる大葉の蓮浮葉　原野　靖子
夏帽の下から真っ黒夫の顔
新芽のぶ意に添わずとも刈りとられ　金田　洋子
夕焼けが好きで西窓部屋が好き
来る夏にソーラーパネルの設備せり　細田　喜久子

中空知の郷土文芸

滝川川柳社

時はすぎ四季の移りに感謝する　大山口和子
振り向けば花より嵐多かった　柏木　慶助
寒い目にとんと気付かぬ有頂天　鈴木登史生
国造り無駄な負債は良く作り　長谷川良実
大笑い元気な老いの常備薬　金谷　樹流
子や孫に残す美田が無い気楽　今井　秀
俺に似た案山子で雀怖がらず　秋山　敏多
消費税春のおしゃべり止まらない　深田　勝
たまたまという幸運にひたりきり　田中　忠幸

赤平短歌連盟

母逝きて我が身をつつむ寂しさよ弥生の吹雪飽かずに眺む　幕田　和子
当事国の歴史認識押し付けて千年の交流良しも悪くも　丸山　賀世
カーテンをそっと開きぬあさぼらけしばし明るし十六夜の月　河崎富美子
近況を知らせる友の絵手紙のずんぐり山葵の春をいただく　田岡　紀子
ピンク色ふちどりこゆく満開のツツジを前にチョイと一杯　山本　敏枝
白鳥の声に引越し荷ほどきの手を止め見上げる空春がすみ　中田トミ子
この冬の寒さにようやく慣れたとき隙間こじ開け消費税来る　斉藤　敏幸
バスの席「どうぞ」「どうも」と譲られる心身逞しスポーツバック　平瀬　明美
春色のカーテンに替へ窓開く癒えない記憶放てるやうに　森田三代子
午前五時山の彼方は春霞たじろぎもせずじっと静観す　菅原　恵一
幸せな明日を夢見るずっしりと重い命をこの手に抱いて　斎藤　栄子
雪解けの雪間に芽吹く福寿草日差しを浴びて満面の笑み　佐々木かしゑ
生真面目に仕事が趣味と言い放つ娘の本当はほんとにほんと　佐藤よう子
「淋しいです」の添書ありし挨拶状グループホームの叔父より届く　森田　純子
年金の確かな目減りレシートのハパーセントつくづく重し　神馬　幸子
眠っても目的地には着くはずとその安堵感も眠りこけたり　志田　敏彦
雪塊の先より落つる雪消水耐へ来し思ひの希望となるらむ　齊藤　通子
梅だより天神様の掛軸と若き日の母今を励ます　今野　節子
音もなく降る雨の夜有力な助っ人ガムテープ行方くらます　田澤　節子
一勝はマーくん以来甲子園高く響けよ母校の校歌　安居　圏一
機嫌よく「おはやう」の声かけ合ひて二人暮らしの足らふこの頃　上保　享子
何もかも値上げラッシュの厳しさに削るものなき独り生活　眞鍋キクヱ
雪溶けの水は音立て流れ行くそっと憂さなど乗せてやりたし　伊藤芙美子
誤字脱字思ひ込みなど重ねつつときをり光る言霊求め　金子ふさ子
早口は無防備のわれをあわてさせぶくぶく沈む角砂糖一つ　堀口　淳子
制服の肘のところをごらんなさいチャイムの音もさよならの歌　杉本　敦子

滝川俳句会

朝涼し焼印しかと宿の下駄　吉田とみを
六月の山ふくれだす鳥の声　金谷　樹流
白牡丹供へて母の居るやうな
薫風や正座崩さぬ男の子なり　杉浦　裕子
乙女等の美脚に視線街薄暑
蜘蛛の囲に震へてをりぬ花一片　泉　恂子

おすすめのえほん

「うさぎじまのうさぎちゃん」

ゆうきえつこ　文
福田　幸広　写真
岩見沢市立図書館　山下　志津子

動物写真家の福田幸広さんがうさぎ島で5年を費やして撮った写真絵本。

とっても愛らしいうさぎの赤ちゃんが巣穴からぴょこんと顔をだす写真や、かわいいおしりを向けている写真にメロメロになっちゃいます。

赤ちゃんうさぎは好奇心いっぱい！しかし、そんなかわいいうさぎを狙うトビが空を舞っていて…。

「つかまったらたべられちゃうの？」赤ちゃんうさぎたちは必死に逃げます。

赤ちゃんうさぎの冒険ノンフィクション絵本。うさぎ島情報と地図も載っています

地元記事満載です！
プレス空知
水曜と土曜
週2回お届け
1ヵ月1400円
気軽にお問合せ下さい
☎0126-22-3700
岩見沢市9条東1丁目

生鮮日の出
ふるさと新時代へ　いま、郷土と共に―
地域のニュース・情報満載・プレス空知…月契1,400円　購読・広告の問い合わせ　プレス空知 ☎(22)3700